

科目	発達障害理学療法学	担当	日比野 幹成	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	1単位

【授業目標・到達目標】

新生児期から幼児期までに起こる小児疾患に対し、理学療法士が行う治療に必要な発達の特徴を考慮しながら、小児理学療法の目的、意義、導入について理解できるようになる。

【履修注意】

講義と簡単な実技方式で進めます。運動のできる服装で受講すること。

【評価方法】

授業態度、出席状況、期末テスト

【試験について】

授業態度、出席状況、期末試験(筆記)にて評価する。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要である。

【教科書】

【参考書】

書籍名: イラストでわかる小児理学療法学 著者: 上杉 雅之 出版社: 医歯薬出版株式会社

書籍名: 小児理学療法学テキスト 著者: 細田 多穂 出版社: 南江堂

書籍名: 子どもの感覚運動機能の発達支援 著者: 大城 昌平 出版社: メジカルビュー社

書籍名: 脳性まひ児の24時間姿勢ケア 著者: 監訳、今川 忠男 出版社: 三輪書店

書籍名: 正常発達 脳性まひ治療アイデア 第2版 著者: 監訳、紀伊 克昌 出版社: 三輪書店

書籍名: こどものリハビリテーション医学 著者: 陣内一保、他 出版社: 医学書院

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	成長と発達	成長と発達の概念
2	運動発達	胎児期および新生児から3ヶ月の発達
3	運動発達	4ヶ月から9ヶ月の発達
4	運動発達	10ヶ月以降の発達
5	評価	姿勢反射と異常運動発達
6	評価	感覚運動発達の評価と診方
7	評価	小児理学療法における評価の特殊性
8	中間まとめ	中間まとめ
9	小児疾患の理学療法①	小児疾患の理学療法の概要、疾患の自然経過、目標設定
10	小児疾患の理学療法②	小児疾患の理学療法の概要、疾患の自然経過、目標設定
11	小児疾患の理学療法③	新生児・未熟児・脳性麻痺
12	小児疾患の理学療法④	脳性麻痺
13	小児疾患の理学療法⑤	脳性麻痺
14	小児疾患の理学療法⑥	精神遅滞、自閉症、頭部外傷、脳炎後遺症
15	小児疾患の理学療法⑦	筋ジストロフィー、多発性硬化症、難治性てんかん
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ